

R6年度院長BSCシート

病院名	がんセンター新潟病院 (記載20220322)
ミッション	県民に広くがん医療を提供
ビジョン	さらに高度・先進的ながん医療を提供できる体制をつくる
運営方針	①がん医療の質の向上、②安全ながん医療の提供、③働き方改革
戦略テーマ	収益向上、がん診療の機能強化

	戦略マップ	戦略目標	重要成功要因(KPI、達成すべき成果目標)	業績評価指標	R03実績	R04目標	R04実績	R05目標	R05実績(12月末)	R05達成見込	R06目標	アクションプラン(留意点:具体的に、「誰が」、「何を」、「いつまでに」を明確に記載)
財務の視点		収支改善	がんのトータルケアの推進のため効率的な病院全体の運営。	病床利用率	74.2%	80.0%	71.7%	80.0%	71.4%	△	78.5%	<ul style="list-style-type: none"> 経営強化プランの実現に向け、診療運営会議等で現状、課題等を共有していく。 【指標】①入院診療単価:69,000円、②病床利用率:78.5%、③平均在院日数:11.0日 患者確保による診療収益の確保。 DPC期間 I での退院症例については、期間 II 退院でのパスの見直し。 R6年度診療報酬改定に対応した加算件数の増(感染対策向上加算2、バイオ後継品使用体制加算、がん性疼痛緩和指導管理料2、急性期看護補助体制加算(夜間看護補助体制加算)等)。 後発医薬品への切り替えによる薬品費の縮減と、後発医薬品使用体制加算 I の安定した算定による収益増。 診療材料について、共同購入の促進、調達業務委託化の適切な運用による費用削減。 委託料などの業務内容の見直し、効率化の推進、長期契約の検討などにより、経費節減に務める。
				平均在院日数	11.6	12.0	11.9	12.0	11.5	○	11.0	
				医業収支比率(税抜)	93.0%	100.0%	88.5%	100.0%	97.2%	△	100.0%	
				一日平均診療単価(入院/外来)	入院65,358円 外来31,939円	入院66,000円 外来32,008円	入院66,154円 外来33,008円	入院66,000円 外来33,000円	入院67,843円 外来33,012円	○	入院69,000円 外来34,000円	
顧客の視点		顧客満足度の向上	患者満足度の向上	医療情報の提供と発信(HPアクセス数(／日))	158,422	155,000	169,045	185,000	93,514	×	185,000	<ul style="list-style-type: none"> 病院ホームページの活用と地域医療連携室だよりの継続発行(年4回)、診療科別リーフレットによる診療内容の紹介 デジタルサイネージからの情報発信を通じ、ホームページへのアクセス増を図る。 患者・家族にやさしい入退院支援を行う。入院支援センター(PFM)の稼働を向上し、R6年度は入院時支援加算3,300件/年間を目標とする。患者総合サポートセンターとしてのさらなる機能強化 完全紹介予約制について、関係医療機関や患者への周知の徹底 病診連携・病病連携のPR(地域連携だより発行) 地域医療機関への訪問の実施(オンライン訪問含む) 地域連携講演会の実施 紹介受診重点医療機関の年度後半の指定に向け、検討を進める。 30%(逆紹介患者数(初診+再算定件数)×1,000)以上を目標とし、初診料、外来診療料の減算を避ける。 完全紹介予約制の徹底化により、再来患者数の抑制を図る。 R6年度は、高線量率リモートアフターローディングシステム(RALS)を導入 令和4年度 1,750件、稼働日数243日 令和5年度 1,216件、稼働日数183日(令和5年12月末累計実績) 紹介患者数を例年数に戻していく。
				安全・安心な看護体制	7:1	7:1	7:1	7:1	7:1	○	7:1	
				外来患者に占める紹介患者の増加(紹介率)	81.5%	84.0%	85.0%	90.0%	85.3%	△	85.0%	
				紹介受診重点医療機関の指定に向けた「逆紹介割合30.0%」の取組		20%	20.9%	20%以上	20.5%	○	30%以上	
				高度診療・診断機器の導入(導入件数)	1	1	2	1	1	○	1	
				PET/CT検査件数(／日)	8.1件/日	9件/日	7.2件/日	9件/日	6.6件	×	9件/日	
				緩和ケア外来受診患者数	6,857人	6,800人	7,063人	6,800人	5,347件	○	6,800人	
				がん予防総合センター受診者数	4,005人	5,000人	4,008人	5,000人	2,723人	×	4,400人	
				がん手術件数	2,193件	2,500件	2,190件	2,500件	1,638件	△	2,200件	
				外来化学療法実施件数(／日)	56.5件	56件	56.7件	56件	57.0件	○	56件	
内部プロセスの視点		がん診療連携拠点病院の機能充実	質の高いがん医療の推進	放射線治療件数	54,776件	52,000件	53,326件	52,000件	41,516件	○	52,000件	<ul style="list-style-type: none"> 入院治療との併用運用により、適切な実施件数の確保と安全性の向上をめざす。 高度精細放射線治療、IMRTの強化継続 医療安全管理部門(専任の看護師、専任の医師、薬剤師を配置)の維持、事故等(全ての死亡事例)の報告の義務化を継続。 より精緻な個別化医療としての遺伝性腫瘍に対するリスク低減予防手術(乳房切除、卵巣・卵管切除)や、乳房切除術、予防的卵巣卵管切除術の実施など、今後の需要増に対応すべく体制を強化していく。 HBOCだけでなく、リンチ症候群やその他ゲノム検査等、幅広く対応していく。 ホームページなどにより、都道府県がん連携拠点病院としての機能を適切に発信する。 がんゲノム医療センターの体制を強化し、リキッド・バイオプシーの需要増に伴う遺伝子パネル検査数の増等に対応する。 新潟大学医学総合病院との連携強化 製薬会社職員の訪問活動を適切に受け入れていく。
				医療安全体制の強化(インシデント・アクシデント報告件数)	3,605件	3,000件	3,492件	3,000件	2,832件	○	3,000件	
				遺伝カウンセリング外来、遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)外来	88件	70件	83件	80件	61件	○	80件	
				遺伝子パネル検査件数	104件	90件	81件	90件	68件	○	90件	
				臨床試験件数(医師主導治験、企業治験等)	22件	前年度より増加	25件	前年度より増加	22件	○	前年度より増加	
				臨床試験件数(医師主導治験、企業治験等)	22件	前年度より増加	25件	前年度より増加	22件	○	前年度より増加	
学習と成長の視点		人材、組織、情報システムの重視	高度・先進医療の導入	専門医等の指定・認定数	266	250	261	250	269	○	250	<ul style="list-style-type: none"> がん薬物療法専門医等の専門・認定資格の取得、医師の増員、新専門医制度への準備、初期臨床研修病院の機能維持と県立病院臨床研修群への参加継続 ①年休5日取得遵守、②超過の縮減など勤務時間の短縮(効率的時間配分、出退勤時間の把握)、③会議時間の1割短縮(効率的会議の運営、事前資料配布)④育児・介護と両立できる勤務環境への取組(復職支援など)、⑤職場ストレスの軽減(ストレスチェック組織分析結果の活用)、⑥ハラスメントのない職場づくりに取組む。 部門長にメール等で現状を把握してもらい、業務の効率化を図ってもらう。
				働き方改革(病院全体の36違反の減)	904	前年度未満	729	前年度未満	587	○	前年度未満	

注1 高度先進医療機器は、定価1億円以上のものを対象とする。

2 医業収支比率は、局費用配分後の税抜き医業収益を医業費用で除した比率

3 がん手術件数は、件数調査統計で、入院患者の手術のうち「悪性腫瘍」の手術件数

4 専門医等の指定・認定数は、医師・薬剤師・看護師のがん関係の資格とする。